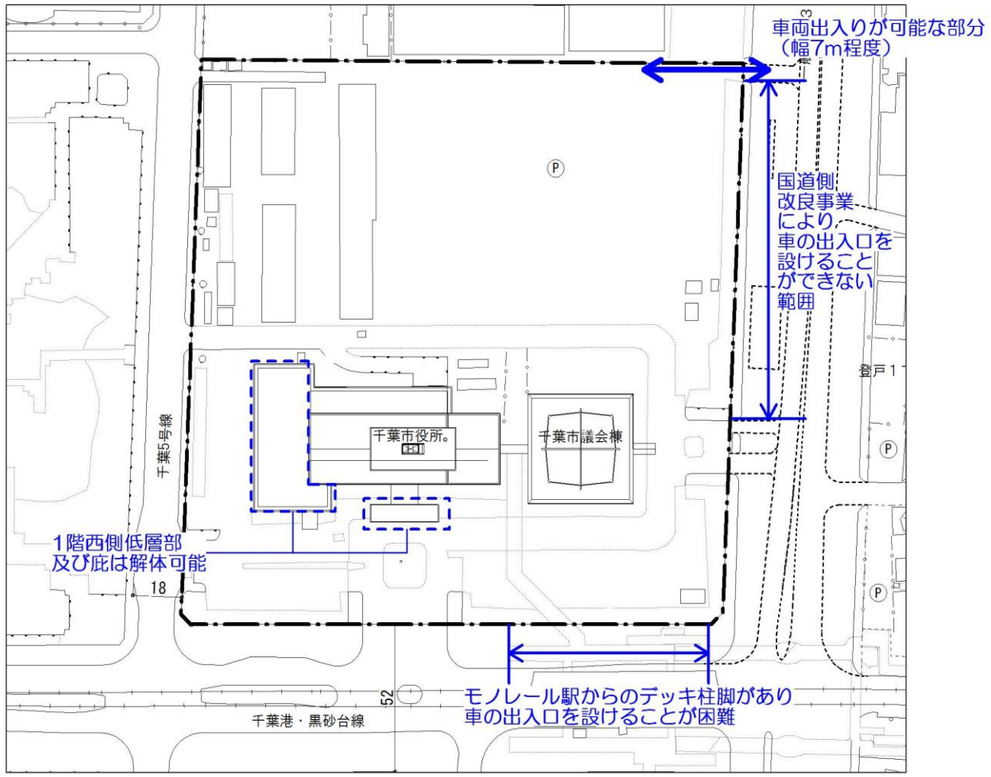
新庁舎のモデルプランについて

資料２－６

１．現庁舎敷地の特徴

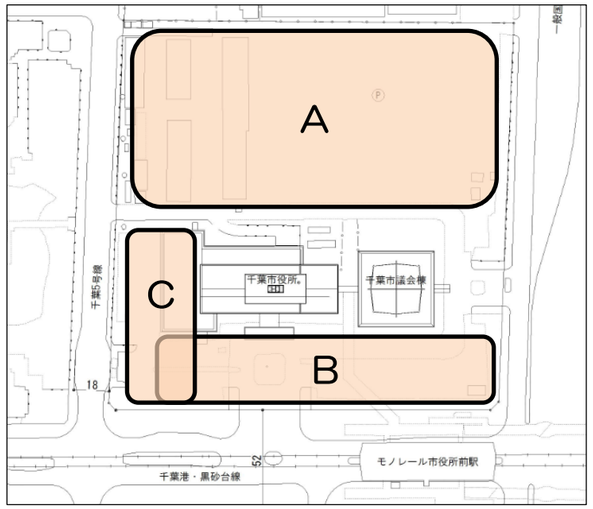


- 国道側は、道路改良事業により車の出入口が設置不可となる範囲がある
- モノレール駅下部は、デッキの柱脚があるため、出入口を設けることが困難
- 現本庁舎の西側低層部/車寄せ庇は、必要あらば解体可能である
- 敷地の概要

建設地	千葉市中央区千葉港1-1
敷地面積	約39,670㎡
法定建ぺい率	80%
法定容積率	400%
周辺道路幅員	北東：一般国道357号 南東：千葉港・黒砂台線 南西：千葉港5号線
用途地域	商業地域
日影規制	なし
防火指定	準防火地域
その他	駐車場整備地区

２．現庁舎敷地における新庁舎の建設可能場所

新庁舎の建設は、現庁舎を活用しながら 建替えることを基本
（工期の分割は想定しない。）



Ａ：現在の北側駐車場

駐車場となっていて、新庁舎の建設に支障はない

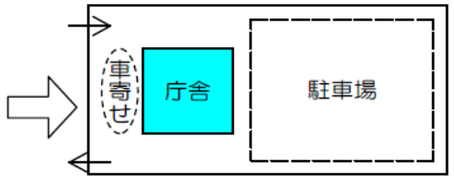
Ｂ：モノレール側

既存庁舎に近接するが、建物形態次第で、新庁舎を配置することが可能

Ｃ：みなと公園側

１階低層部を解体することで、新庁舎の一部を配置することが可能

３．モデルプランの設定

- 新庁舎の規模を50,000㎡と設定し、建築面積は最大10,000㎡程度
- 駐車場部分として、12,000㎡程度（約400台の駐車場）
  ⇒現庁舎敷地において、約2haと設定

庁用エリア（約2ha）のイメージ